

## 第 3 回粟国空港 PI 評価委員会 議事抄録

① 日 時 平成 22 年 11 月 2 日 (火) 10:00~12:00

② 会 場 オーガストインク久茂地 会議室

## ③ 出席者

粟国空港 PI 評価委員会委員

沖縄国際大学 経済学部 教授	大城 保 (委員長)
琉球大学 工学部 教授	堤 純一郎
フリージャーナリスト	崎山 律子

粟国空港協議会

粟国村 村長	新城 静喜
沖縄県 土木建築部 参事	池田 尊彦
沖縄県 土木建築部 空港課長	伊佐 実春

## ④ 議 題

- (1) 粟国空港 P I における情報提供及び意見募集方法
- (2) 粟国空港の調査報告書 (案) について
- (3) ハガキ、ホームページによる意見募集について
- (4) その他

## ⑤ 配布資料

資料 1 : 粟国空港 P I における情報提供及び意見募集方法

資料 2 : 粟国空港の調査報告書 (案)

資料 3 : ハガキによる意見募集用紙 (案)

資料 4 : ホームページによる意見募集方法 (案)

参考資料 : 粟国空港 P I 評価委員会規約

粟国空港整備計画に関する P I 実施計画書

(大城委員長) 社会状況が、益々厳しい状況になってきていることは、われわれもまた日本国民が感じているところです。厳しい状況だからこそ、むしろいろいろなアイデアや知恵をだし、やはり実現するべきものとそうでないものとしっかり区分けをしていって、やはり実現すべきものは、しっかり実現していくということが大事なのではないかと思います。

そういう意味で、特に沖縄県の場合には、多くの離島を抱えていることを考えますと、何はさておいて命をつなぐ交通網・ライフライン。これは何も道路や空港とは限りませんが、水道にしても電気にしてもライフラインというものは、国家あるいは都道府県の責任として、やはりナショナルミニマムの部分については、しっかり実現していくべきものを区分けしていくことが大事なのかなと考えます。

今回の粟国空港の整備計画についても、いろいろな案があるようですので、われわれ委員もそうですが、事務局も県当局もそして国に対しても、しっかりその方向性を検討していただくということが大事なのかなと考えます。

今回の議事では、主要な議事が3つあります。議事1では「粟国空港P1における情報提供及び意見募集方法」、議事2では「粟国空港の調査報告書(案)について」で今回の大きな柱になります。議事3では「ハガキ、ホームページによる意見募集について」であり、議事4として何かあれば「その他」ということで進めていきます。

## 【議事における主な発言内容】

### (1) 粟国空港P1における情報提供及び意見募集方法 (議案1:資料1)

(事務局) 資料1の説明

(大城委員長) 今年の4月に公表したP1実施計画書の情報提供・意見募集方法から大きく変わったところがありますか。

(事務局) 調査報告書をモノレール駅に設置するなど、配布枚数を増やしています。その他は特に大きな違いはありません。

(堤委員) パネル展示について、パネルの大判はどのくらいの大きさなのでしょう。

(事務局) ポスターと同じB2版になります。

(崎山委員) 11月26日~28日に開催される沖縄県の離島フェアは、多くの方がいらっしゃるので、粟国村のブースで調査報告書を配布すると良いと思います。また、説明会は粟国村と那覇市となっていますが、那覇市の地元説明会はどこで行うのでしょうか。

ポスターの掲示場所に地元関係団体がありますが、粟国村のどの関係団体なのでしょう。粟国村には郷友会を中心とした関係団体があり、そこには飲食店の関係者が多いと聞いていますので、そのような店も考えているのでしょうか。

(事務局) 沖縄県の離島フェアへの公表については検討したいと思います。那覇市の地元説明会は郷友会の方々が集まりやすい場所で開催できればと考えています。開催場所は粟国村にどこが良いか聞いているところです。

粟国村の地元関係団体は郷友会や観光団体等を想定しています。

(堤委員) チラシ等の配布は県内だけなのでしょうか。沖縄県の東京事務所や「わしたショップ」を活用して、多少は県外にアピールすることはないのでしょうか。

(事務局) 県外への配布については行う方向で考えたいと思います。

(大城委員長) 情報提供、意見募集方法については、P I 実施計画書の内容から部数を増やしていますし、委員の先生方から出た意見は事務局で検討していただきたいと思います。

## (2) 粟国空港の調査報告書(案)について

## (議案2:資料2)

(事務局) 資料2の説明。6頁の2-④、9頁のタイトルに記載している“方案”は“方策”に修正します。

(崎山委員) 今回は粟国空港の整備計画に関するP I ですが、粟国村にとっては、粟国島をアピールするチャンスになります。3頁のアンケート調査について、粟国島の住みにくい理由だけだと、粟国村の良いイメージになりません。住み良い理由のトップ3も併記すれば、住みにくいの中に、どのような住みややすさがあるのかを示すことによって、粟国島の魅力も出て、観光資源も分かると思います。

4頁の下の図は表紙と同じ人物が出ていますので、「むんじゅる笠」を入れるなど、粟国村を象徴するようなものを入れた方がアピールになると思います。また、現在掲載している人は島の中に小さくして載せてはどうでしょうか。

(堤委員) 4頁の離島力の発揮は重要な話になってくると考えており、離島に住むこと、有人離島が存在することの重要性を強調した方がよいと思います。また、最近の言い方で交通権(交通の権利)というものがありますが、離島では交通の利便性を確保・保障することを前提に暮らすことが重要になります。離島の将来像として、離島に人が暮らすことが重要であるということ、このためには交通を確保することも重要であることを付け加えてほしいと思います。

(大城委員長) 1頁の検討概要は、船の欠航がなければ定期航空路の再開設を考えないと捉えられる可能性があります。島内交通体系の充実や島とのつながりを持つことが、県のビジョンにおける離島力の発揮ということを考えると、離島力を発揮するには、交通が保障されなければならないことを入れてほしいと思います。

6頁の利用者の見込みでは、平成32年に15,000人を見込んでいます。平成5~14年まで20,000人を超え、その後なぜ減ってきたのかを考え、その原因を克服できれば、

利用客が 25,000~30,000 人に増加する可能性はあるのではないのでしょうか。また、過去の実績や島の活性化を考えると、それ以上の見込みが期待できるのでしょうか。期待見込みを入れ込んでもいいのではないかと考えます。

7頁の「長い滑走路の整備を検討する理由」の順序は「定期航空会社がもっている飛行機」が最初だと思いますので、検討した方がよいのではないのでしょうか。

**(協議会：池田)** 崎山委員からのご指摘の点について、3頁のアンケート調査の住みやすさの理由については掲載を工夫して入れたいと思います。なお、住み良い理由のベスト3は、第1位「自然が豊かである」、第2位「のんびりできる」、第3位「生活環境が良い」の順となっています。また、4頁の粟国村の名物は粟国村と相談して素材を考えたいと思います。

堤委員からのご指摘の点について、4頁の交通権については、国土保全の観点も含めて「沖縄 21 世紀ビジョン」や国の交通基本法に少し触れられているので、掲載を工夫して入れたいと思います。

大城委員長からのご指摘の点について、6頁の利用者見込みは過去の島の人口が 1,000 人いて、利用者が 30,000 人以上あったことを踏まえると、15,000 人は妥当な数値だと思えます。当時は DHC-6 が多頻度運航していたため便利でしたが、今後 39 人乗りが就航した場合に、需要予測で 1 日 1 往復ということなので、利用者が増減した場合の検討も必要だと思えます。島内人口 1,000 人程度に対して、航空利用者が 2~3 万人だった実績を記載したいと思えます。

7頁の検討理由の順番については、現状を説明した上で、将来どういう形にしていくかという構成になっており、現状の記載方法でいきたいと思えます。

頂いた指摘の他に修正したい点があります。2頁の一番下の文章は「今後、後期基本計画の策定に際し、必要な見直しを行います」に修正したいと思えます。また、10頁のA案とB案の表について、A、B案の記述が同じものは欄をつなげて記載したいと思えます。

**(崎山委員)** 6頁の「これまでの那覇-粟国航空路線と課題」について、平成 10 年頃に 30,000 人のピークを迎えていた時に、どういう状況だったのかを村長にお聞きしたいです。これは今後観光客が増えるかどうかのヒントになりますので、ピーク時の背景を伺いたいと思えます。

**(協議会：新城)** 平成 10 年は 30,000 人の利用客がおり、その背景には当時粟国村が「ナビの恋」のロケ地だったため、ロケ地の見学者が多かったことが言えます。平成 14 年度以降は、新造船の就航によって 2 時間で利用できるようになり、船舶の利用が増えたのではないかと考えております。最近では、景勝地で原野化しているマナハー帯では、スポーツによる健康増進のため、今年度パークゴルフ場を整備しました。さらに、今年の5月に観光協会を設置し、観光協会を中心に観光の活性化に努めている状況にあります。今後も 30,000 人に達成できるように施策を講じていく必要があると考えています。

利用者の減少は運賃の増加やその他経済的、社会的な影響があると考えられます。今後は農業基盤を整備し、本土から粟国村出身者をリターンさせ、農業で生活できるような体制を

作り、人口を増加させ、利用客を増やしていきたいと思っています。

(**崎山委員**) 6頁の利用客の見込みのところ「交流体験のてるくふぁ島構想」とありますが、「てるくふぁ島」とは何なのでしょう。

(**協議会：新城**) 「交流体験のてるくふぁ島構想」は、平成21年4月から平成31年までの栗国村の基本計画の目標テーマとして掲げています。「てるくふぁ」は「太陽の恵みを受ける」という意味が含まれており、観光協会では県外からの観光客に体験させる陶芸や追い込み漁などのメニューを考えています。

(**崎山委員**) 利用客の見込みの前段の文章では、栗国村の特徴が伝わらず、交流体験をメニューに入れば、観光客が増えるということではないため、ピーアルが弱い、具体的に栗国の塩など、観光客の見込みが得られそうなものがないと説得力に欠けます。

(**堤委員**) 6頁の利用客の見込みについて、航空会社は（提供座席数の）7割乗れば収益を確保できると言われており、39人乗りを26～27人で往復すると、1日50数人、年間で18,000～19,000人の実績になり、この利用客の数値を掲げて良いと思います。7頁の39人乗りで1日1往復では使いづらいので、利用客が少し増えれば2往復になることを記載しても良いと思います。

定期航空会社が持っている飛行機は39人乗りと書いてありますが、部品を確保しておかないといけないこと、定期航空会社の場合、パイロットは機種毎に免許を取らないといけないこと、航空会社が多様な機種を持つことは得策ではないことを入れても良いと思います。

(**協議会：池田**) 堤委員からのご指摘の件について、7頁の「定期航空会社が持っている飛行機」には、経営効率的に多数の機種を持つことは簡単ではないことを書きたいと思います。需要予測については、内部で検討した際に村の将来人口を予見した上で算出しています。また、7頁の「航空利用客と飛行機の便数」について、運航便数の差は小型機であれば、運航頻度が増えることを示しています。

大城委員長からのご指摘の件について、過去に20,000～30,000人の実績があったことを本調査の前提条件として記載したいと思います。

(**堤委員**) 39人乗りで1日1往復では、日帰りできる状況になく、宿泊しないといけないため利用客は困ると思います。できれば1日2往復という期待を含め、過去の実績から19,000人に達すれば、1日2往復する可能性があることをコメントすると良いと思います。

(**協議会：池田**) 39人乗りの飛行機で1日2往復する可能性については今後検討したいと思います。アンケートにおいても、飛行機の大きさと便数の関係についてトレードオフの関係にあり、利用者が少なかった場合、便数が減って、不便になる可能性を否定できません。

るので、飛行機が大きくなると利用頻度が減少することについて、意見を聞きたいと思っています。

(**崎山委員**) 10 頁の A、B 案の比較の中で、自然環境は重要な問題であり、A 案の「海域を埋め立てる」、B 案の「海域を埋め立てない」は大きな違いであるので、標記方法を工夫してほしいと思います。自然環境への影響は A 案の方が大きいことを明記すべきだと思います。

(**協議会：池田**) 標記方法については事務局で検討したいと思います。

(**大城委員長**) 調査報告書の内容について、委員から多くの意見が出てきたと思いますので、事務局で検討していただいて、回答する方々にわかりやすくしていただきたいと思います。

### **(3) ハガキ、ホームページによる意見募集について (議案3：資料3、4)**

(**事務局**) 資料3、4の説明

(**堤委員**) 「飛行機の大きさ」と「便数」について、「小さな飛行機で複数往復」、「大きな飛行機で1往復」という質問項目は良いと思います。また、ホームページのリンクはどこに貼るのでしょうか。

(**事務局**) 資料1の2頁に記載していますが、県の空港課、村役場、観光コンベンションビューロー、小さな島物語（沖縄県小規模離島航空路利用活性化事業）のホームページに掲載を予定しています。

(**崎山委員**) 飛行機の大きさについて、「大きな飛行機」と「小さな飛行機」の表現方法は変えた方がよいと思います。大きな飛行機はジャンボのイメージがあり、何人乗りかが回答者に分かりやすいかが気になります。

(**協議会：池田**) 具体的に19人乗りで2往復がいいですか、39人乗りで1往復がいいですかという調査報告書の表現と併せて記述したいと思います。

資料3の郵便ハガキの属性について、職業欄の「派遣社員」は削除したいと思います。また、農林水産業を入れる場合は、主要産業である建設業、観光業を加えたいと思います。

(**崎山委員**) 派遣社員や専業主婦はいらぬと思います。専業主夫もいますので、このままでは、時代に沿った項目にはなっていないと考えます。

(**大城委員長**) 職業欄については、検討していただきたいと思います。

(**堤委員**) ホームページのリンク先は空港課だけでなく、沖縄県のトップページにも掲載す

るのでしょうか。無理かもしれませんが、JAL や RAC のホームページに掲載することは可能なのでしょうか。

(協議会：池田) 沖縄県のホームページの運用規約を確認したいと思います。沖縄県のトップページでは「お知らせ」に掲載しますが、時間が経つと消えてしまう状況があります。

(堤委員) バナーを載せることは可能なのでしょうか。

(協議会：池田) バナーの件は検討したいと思います。また、RAC にはホームページへの掲載について相談したいと思います。

(大城委員長) ハガキ、ホームページに関する意見募集については、委員からの意見を事務局で検討していただくことでよろしいでしょうか。

#### (4) その他

---

(大城委員長) 最後の「その他」について、質問はありますでしょうか。

調査報告書の裏面にパネル展示や説明会の開催日が掲載されていませんが、いつ頃を想定しているのでしょうか。

(事務局) パネル展示については 12 月の 2~3 週目を検討しているところです。

(協議会：池田) 今後の詳細なスケジュールについては、日時が決まり次第、委員の方々にお知らせしたいと思います。

(大城委員長) その他に意見はないでしょうか。それでは、これで第3回粟国空港PI評価委員会を終わりにしたいと思います。

以 上